

第一報

日本プライマリ・ケア連合学会北海道ブロック支部 第11回北海道地方会

- 日 時： 令和6年6月29日(土)13時30分～18時10分(受付12時30分～)
○場 所：「かでる2・7」(北海道立道民活動センター 札幌市中央区北2条西7丁目)
○参加費：無料
○テーマ：『今から取り組む、明日のためのヘルスプロモーション』
○プログラム：

1 開 会 式(13:30～13:40)

2 定 時 総 会 (13:40～14:00)

3 学 術 発 表 (14:00～15:00)

◆一般演題(口演・ポスター発表)

【口 演 座 長】小嶋 一 先生(手稲家庭医療クリニック)

【ポスター座長】若林 崇雄先生(JCHO 北辰病院)

4 WS 等各企画 (15:10～16:40)

① 予防医療 Update

【内容、講師】<健 診>:佐々尾 航 先生(北海道立羽幌病院)

<誤 嚥 性 肺 炎>:若林 崇雄先生(JCHO 北辰病院)

<小児期逆境体験>:黒鳥 偉作先生(北海道大学公衆衛生学教室)

◆「予防医療」とは「疾患を予防する医療」として捉えられますが、その中に含まれる領域は幅広いものです。今回の講義では、限られた時間のためテーマを3つに絞ってお伝えします。

「健診」は医療従事者として提供しつつ、また自身のヘルスマネジメントとして身近なもので、「予防」の中でも最もイメージされやすいものです。地域住民、特に未受診者に受検していただくには、適切にメリットを理解しておくことも重要です。「誤嚥性肺炎」は高齢化に伴い増加しています。患者や家族の個別的な問題にとどまらず、医療費増大や介護ケアの逼迫など社会的問題であることが指摘され、プライマリ・ケアに携わるすべての医療者が介入し再発予防に努めることが求められます。

「小児期逆境体験」と呼ばれる、子ども期の虐待経験や親の死別や離別、貧困などは、様々な身体疾患や精神疾患のリスクになることが知られており、予防医学の最前線として近年注目されています。

この企画を通じて、地域の健康増進のために様々な立場で支えている皆様にとって有益な情報をお届けしたいと思います。

② シンポジウム：『地域リハビリテーションとアウトリーチ～リハ職による介護予防の取り組み～』

【座 長】小林 英司 先生(日本医療大学 リハビリテーション科)

田村 英俊 先生(寿都そよかぜ薬局)

今江 章宏 先生(北海道家庭医療学センター 寿都町立寿都診療所)

【シンポジスト】水本淳先生(北海道文教大学 リハビリテーション学科)

樫木雅美先生(医療法人社団北樹会病院)

渡部和也先生(北海道家庭医療学センター 寿都町立寿都診療所)

◆今年の「多職種企画」は、リハ職のアウトリーチを取り上げます。プライマリ・ケアの現場では皆さんそれぞれのフィールドでアウトリーチに取り組まれていると思いますが、職種が違えばアウトリーチの対象・方法も当然異なります。今回はリハ職における「介護予防」を中心にご紹介し、リハ職が地域でどのように取り組んでいるのかを知っていただき、さらに都市部(札幌市)と郡部(寿都町)の実践紹介を踏まえ、人口規模によるアプローチ方法や課題の違いについても考えてみます。

単に「リハ」における取り組みを知るだけでなく、参加者の皆さんにとってもご自身のアウトリーチについて考えを深めるきっかけになればと思っています。様々な職種の方のご参加をお待ちしています！

③ ワークショップ:『臨床発達心理士から学ぶ、思春期ケアをする上で役立つコミュニケーションのコツ』

【講師】 齊藤 祐子先生(しんかメンタルクリニック)
佐藤弘太郎先生(北海道家庭医療学センター 本輪西ファミリークリニック)
荒井 悦子先生(CHCPヘルスケアシステム 桑園中央病院)

◆プライマリ・ケア外来で、思春期の患者さんの対応に困ったことはありませんか。心理士と講師が、どの職種でも使える「コミュニケーションのコツ」を事例を通じてWS形式でお届けします。器質的原因がはっきりしない症状に対して、処方以外のケアの引き出しが少ないあなた！たかがコミュニケーションといって馬鹿にすること勿れ。思春期ケアの苦手意識が少しでも軽くなることを目的に企画しました。日常的に思春期ケアをしている人もしていない人も楽しく学べるセッションとなっておりますので、どうぞお気軽にご参加ください。

④ カフェ企画:『待ち時間でちょこっとヘルスプロモーション(略して、「ちょこヘル」)』

【企画担当】:山口 章江先生(十勝勤医協帯広病院)
稲津 郁子先生(アイン薬局白石南郷通店)
平野 寿孝先生(広尾ファミリークリニック)

◆患者さんにとって決して短いとは言えない病院、診療所、薬局の待ち時間。読書やスマホで時間をつぶす方も多いですね。その待ち時間を、自分や家族の病気の予防や、健康に関する情報に接する機会にするための工夫をしていますか？待合室の一角に置かれた本や漫画、目を引くポスターやデジタルサイネージ、持ち帰ることのできる病気説明のパンフレット、トイレにそっと置かれたカード。もしかしたら、医療職に直接言われるよりも、さりげなく患者さんのヘルスリテラシーを底上げしてくれるものかもしれません。そんな、「ちょこヘル」に役に立つツールやアイデアをお持ちよりください。もちろん聞くだけ参加も歓迎です！

5 基調講演:(16:55~18:05):『なぜあの人は健康づくりをしない？ ナッジで人を動かす』

(オンライン配信あり)

【講師】:竹林 正樹先生(青森県立保健大学・青森大学)
【座長】:鈴木 聡先生(市立旭川病院)

◆医療者に求められる使命は、単に病める人を癒すだけではありません。病気の予防、悪化の防止、生活への影響の最小化に尽力することも必要です。しかし、人は不摂生な生活を「わかっちゃいるけどやめられない」ものですし、患者さんがアドバイスを耳を貸さない場合、医療者は苛立ちを感じたり、辟易したりすることもあるでしょう。それに加えて、いま病んでいないためにあなたの門を叩かない人には支援を提供することも難しいのが現実です。

今回の基調講演では、「ナッジを利かせたヘルスプロモーション」で知られる青森大学客員教授の竹林正樹先生をお迎えします。竹林先生は、合理的な思考からズレてしまいがちな人の背中をそっと後押しするアプローチ、ナッジの手法を駆使して、様々な領域でヘルスプロモーションのためのコンサルティングを手掛けておられます。今回は、特に喫煙率の高い北海道に焦点を当て、禁煙を含む予防行動についてご講演いただく予定です。竹林先生の示唆に富んだお話は、明日からあなたの地域でのヘルスプロモーションに大いに寄り添うことでしょう。ぜひ、ご期待ください。

6 閉 会 式(18:05~18:10)

7 懇 親 会(18:30~20:30) : 詳細は 5 月下旬の最終案内で!

- 託児室(「かでる2・7」内)を準備予定です。詳細は5月下旬の最終案内でご確認ください。
- JPCA の生涯学習単位並びに専攻医 off-the-job トレーニングの単位が取得できます。(申請中)

令和 6 年2月 28 日

第11 回北海道地方会 実行委員長 鈴木 聡 (ブロック支部幹事 市立旭川病院)